

第 3 回  
慶應義塾 樂友會 合唱團  
發表會

昭和 29 年 11 月 28 日 (日)

午後 6 時 30 分

山葉ホール

指 揮	岡 田 忠 彦
オルガン	内 藤 弘 子
ハープ	山 畑 松 枝
チェロ	伊 東 毅

主 催 慶 應 義 塾 樂 友 會  
同 高等 学校 音 樂 愛 好 會  
女子 高校

第 3 回 發表會 を 迎 え て

楠 田 久 泰

一昨年五月発足した私達樂友會も、こゝにとにかく第三回の發表會を開くことになりました。この二年半の間、もとより必ずしも全く順調に發展して來たとは云えないとしても、ようやく短いながら振返るべき過去を持ち得たということは、私達にとって、決して小さいことではないように思われます。

自分達で音樂を楽しむという同じ目的を持つて集つた私達であつても、私達自体が、さうやかな社會であり又もう一つ大きな基盤としての社會に於いて、好もうと好まざると一つの要素として存在している以上、今後のより健全な發展の爲の意欲と反省のよりどころとして、自分達の歴史を大切にしていかなければならないことは、いうまでもありません。そこから、吸収し得る限りのものを吸収して、初めて未來が可能性を持つたものとなり得るのですし、又私達の目的も、それによつてより明確で、具体的なものとなつて行くのだと思ひます。

今後の私達の爲すべきことの一つは、他の多くの合唱團とより親密になることだと思ひます。我々日本人の音樂を創つて行こうとする私達の、そして我國樂壇のはるかな理想の爲に、多くのアマチュア合唱團相互の密接な協力が大きな力となることは充分に期待されてよいことだと思ひます。

勿論一方に於いて、私達一人々々があらゆる意味でのより高い知性を持つことも、この理想の爲に欠くことの出来ないことですが、又それ以前に我々の一つの大きな目的でもあるはずですが、その意味でも今回の發表會でフランクのミサ・ソレムニスという本邦初演にも等しい大曲をとりあげたことを、充分に意味あらしめたいと思つて居ります。